

2013年8月27日

北海道知事 高橋 はるみ 様

民主党北海道総支部連合会
代表 横路 孝弘
民主党北海道第8総支部
代表 逢坂 誠二

J Rの安全運行確保、輸送力確保に関する要望

8月16日から道南地域をおそった集中豪雨により、渡島北部や檜山南部では、観測史上最大の大雨を記録、各地で河川の氾濫や土砂崩れ、収穫間近の農作物への被害や流木による漁業被害などが発生した。

そうした中で、北海道の交通の大動脈であるJ R函館線が、貨物列車の脱線事故によって17日未明から3日間にわたって不通となり、旅客輸送、観光、物流などに甚大な影響をもたらした。

現場は、8月9日の大雨でも砂利流出があった八雲町内熱田川を横断する箇所であり、その復旧後も、J Rが低速での制限運転をしていた区間であるにもかかわらず事故が発生した。

事故の原因は、大雨での河川増水による砂利流出であるとされているが、点検や管理を徹底すれば、脱線に至らなくとも一時的な不通にとどまった可能性が高い。この現場では3年前にも線路の砂利が流される災害が発生しており、J R北海道と函館開発建設部、八雲町の三者が、対策を協議してきたが、抜本改修は実現していない。また、三者協議に基づき、八雲町が仮設した設備は、熱田川を横断する橋梁桁部への悪影響も懸念されている。

現場周辺には障がい者授産施設「かつら協同作業所」があり、今回の被災で水没した現場を通る道路が、同作業所にとって唯一の交通手段であることから、早急な抜本対策が求められている。

民主党北海道総支部連合会、民主党北海道第8総支部は、本日、J R北海道や北海道開発局に対し、① J R北海道は、近年の局地的大雨の増加など気象現象の変化を専門家の意見を聞くなどして検証し、運行基準の見直しを検討すること ② J R北海道、函館開発建設部、八雲町は、熱田川での治水対策について、平成22年から再三協議しているが抜本的な対策には至っていない。今回の事故の社会的、経済的影響の大きさを十分に認識し早急、かつ具体的な抜本対策を講ずること ③ 特に国道5号とJ R函館線を横断する熱田川のボックスカルバートの流量不足が懸念されることから、大型化や新たな放水施策をはじめとして、その抜本対策を講ずること ④ 今後、台風シーズンを迎えるにあたっての対策をはじめ、抜本策が実現するまでの間の応急措置について三者協議し万全な対応をとること — の4項目を要望したが、道においても、旅客輸送、貨物輸送に万全を期す観点で、国やJ Rにこうした対応を求めるとともに、安全運行確保、輸送力確保のための道として取り組まれるよう要望する。

以上